

山梨市の新エネルギービジョン策定にあたり

山梨大学工学部長
山梨市地域新エネルギービジョン
策定委員会委員長

鈴木 嘉彦



山梨市は、旧山梨市、牧丘町、三富村という三つの市町村が合併して誕生した新しい市です。それぞれの地域は、自然環境や文化という点で特色を持っています。最近の市の取り組みを見ると、それらの特性を上手に生かし、21世紀にふさわしい持続可能な地方都市づくりに積極的に取り組み始めていると感じています。

ところで、具体的に持続可能な地域社会を実現するためには、国連がアジェンダ21で明確にしているように種々の条件を満たさなければなりません。その中でも、もっとも基礎となる条件の一つが、持続的に供給可能なエネルギーを確保することです。つまり、地域の自然資源を生かした持続的なエネルギー確保の施策が必要です。ここにまとめられた山梨市の新エネルギービジョンは、そのような考えに基づいて策定されています。

本新エネルギービジョンでは、山梨市の特性を生かし、バイオマス資源の活用について重点的に提案しています。バイオマス資源は太陽の光エネルギーを活用する植物を元に生み出される再生可能な資源として期待されています。しかし、バイオマス資源は広く薄く分布しているため、原子力発電や火力発電のような大規模なものとはならず、地域に密着した活用が必要となります。その意味では、単にエネルギーの活用という観点だけでなく、豊かな果樹地帯と万力公園に代表される癒しの場としての森林空間などとあわせて、地域の総合的な活性化計画の一環として活用されることが大切です。山梨市の活性化の一環として、新エネルギービジョンが生かされることを願っています。

平成18年2月